音楽の才能

私はあらゆるジャンルの音楽が好きだ。私の友人の多くは、私の好みがあまりに多彩であることに驚く。ブルーグラスなどのカントリーミュージック、ゴスペル、ロックンロール、ソウル、クラシックなど、伝統的なものから現代的なものまで、種々多様な音楽を聴く。アメリカ・インディアンの音楽とか、日本の演歌や民謡などのさまざまな民族音楽のファンでもある。

一方、音楽を演奏したり創作したりする方面での才能がまったくないのは、あらゆる音楽が好きな私にとって残酷な皮肉と言える。実際、私の血縁者には音楽の才能がある者はほとんどいない。

そんな中で、顕著な例外が妹の一人、シェリル（Cheryl）だ。父の９人の子供たちの中で、シェリルだけが音楽に秀でている。なぜ彼女が例外なのか、私は長い間不思議に思っていた。そこで私は、彼女と音楽との関り、彼女の人生における音楽の旅についてもっと知るために彼女から話を聞いてみた。

シェリルは５歳で音楽活動を始めた。姉はピアノを習っており、シェリルは姉がやっていることは全部やりたい、姉よりも上手にやりたいと思った。彼女は母親からキーボードへの指の置き方を教えてもらい、試行錯誤の末、比較的短時間で「テキサスの黄色いバラ（The Yellow Rose of Texas）」を弾けるようになった。それ以来、姉が演奏するものは、競争するように何でも演奏するようになった。

高校に入学したシェリルは、ピアノからパーカッションに転向した。しかし、これは音楽的には“転向”ではないのだそうだ。シェリルは、技術的にピアノは弦楽器と打楽器の両方に分類されると指摘する。ともあれ、高校生のシェリルは学校のマーチングバンドで演奏したかったのだ。ピアノが打楽器に分類されるとしても、それを持って行進することはできない。

高校卒業後、シェリルはインディアナ州マンシー市にあるボール州立大学に入学した。専攻は音楽演奏だ。マンシー市にある大学キャンパスに到着したとき、彼女はすぐに自分が音楽専攻生の中で最悪の音楽家の一人であることを自覚し、愕然とした。しかし彼女は、意気消沈するのではなく、他の学生よりも上達するために猛練習を始めた。その日々の練習時間はしばしば12時間を超えた。彼女は２カ月ほどで新入生用の規定の曲目をマスターした。さらに次の２カ月で２年生用の曲目をマスターし、１年生の全学期が終わる頃には３年生と同じレベルで演奏できるようになった。

こうした努力の甲斐あって、彼女は最終的にマンシー交響楽団のオーディションを受け、見事に合格した。現在、シェリルは、マンシー交響楽団の一員として、パーカッショ

ンを担当している。

今のアメリカにはフルタイムのオーケストラが17しかないそうだ。その内、フルタイムの打楽器奏者は50人ほどであり、それら打楽器奏者にはそれなりの困難がある。ヴァイオリニストは楽器を１つ持てばいいのに対して、彼女はたくさんの楽器を持たなければならない。打楽器奏者が住む家は、通常より幅広の出入り口を持つ必要がある。また、これらの楽器をすべて移動させるには、特別な保険をかけたトラックとかトレーラーが必要だという。

したがって、他の交響楽団員も同様だが、打楽器奏者は他にも仕事を見つけなければならない。シェリルはクラシックを得意とするが、それ以外に様々なジャンルのパーカッションを演奏する。教会で演奏することもあるし、ソウルの女王アレサ・フランクリンがインディアナで公演したときに演奏したこともある。

それでも十分な収入を得ることは容易ではなく、演奏以外の仕事を見つけなければならないのが現実だ。

シェリルは現在、救急救命士（EMT）として働いている。その前は、自動車整備士として働いていた。私は彼女に、音楽的なトレーニングがそうした分野で役立っているのかと尋ねると、彼女は肯定的な答えを返した。彼女の聴力は非常に鋭く、800rpmでアイドリングしているV型８気筒のエンジンの１つのシリンダーがミスファイアしたら、それを聴いただけでどのシリンダーかを判断することができる。救急救命士としての現在の職業では、患者の心拍数を３拍後に正確に確定することができる。

私は現在、米国の特許専門家として働いている。その仕事は面白いが、ほぼ“音のない世界”である。シェリルが持つ音感や聴力の鋭さは活きない領域で私がプロとしてやれているということが、シェリルが持ち、私に欠けている音楽の才能を象徴しているのかもしれない。

シェリルの兄として、そして音楽愛好家として、私は彼女をとても誇りに思うし、多くの人々を幸せにする瞬間を創り出すことのできる音楽に人生の多くを捧げていることをとても嬉しく思う。

著者紹介

タッド・ガイス（Todd Guise）

米国パテントエージェント。United IP Counselors, LLC所属。
20年以上の経験を持つ米国パテントエージェントです。
インディアナ大学で数学の学位を取得後、コンピュータサイエンスを専攻しました。
これまでに、何千件もの米国特許出願のレビューを担当しており、特に機械分野を中心に多岐にわたる分野の特許出願に携わってきています。
日本に在住した経験があり、母語の英語に加えて日本語も堪能です。

【参考】www.unitediplaw.com